

第3回札幌市オリンピック・パラリンピック教育検討会議 議事録

日時： 平成29年11月9日（木）16:00～18:00

場所： ニューオータニイン札幌 2階 北斗の間

出席者：

○委員

北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ文化学科 教授	山本 理人	委員
札幌オリンピックミュージアム監修者、中京大教授、 JOA(Japan Olympic Academy)委員	來田 享子	委員
北海道オリンピック・パラリンピアンズ事務局、 競技団体連絡会議アスリート部会副会長	鈴木 靖	委員
夏季オリンピック	成田 郁久美	委員
冬季パラリンピアン、 競技団体連絡会議アスリート部会委員	永瀬 充	委員
西区PTA連合会会長	荒 光弘	委員
平岸高台小学校校長	大牧 眞一	委員
東月寒中学校教頭	秀島 起也	委員

欠席者：

オリンピックミュージアム名誉館長、 競技団体連絡会議アスリート部会副会長	阿部 雅司	委員
---	-------	----

次第：

1 開 会

2 議 事

札幌らしさを生かしたオリパラ教育の副教材案と実践事例集案について

3 閉 会

《配布資料》

資料1-1 第2回検討会議 意見要旨

資料1-2 第2回検討会議 議事録

資料2 本会議における最終報告

資料3-1 副教材ページ割

資料3-2 副教材案

資料4 実践事例素案

発言者	発言要旨
1 開 会	
山本座長	<p>第3回札幌市オリンピック・パラリンピック教育検討会議を開会する。本会議は、札幌市オリンピック・パラリンピック教育検討会議設置要綱の第4条第4項により、委員の過半数の出席が必要であるが、本日の出席者は委員9名のところ8名に出席いただいているため、会議は成立していることを報告する。</p> <p>本日の会議であるが、まずは第2回目の会議の振り返りを行いたい。前回の会議では、各委員に「札幌オリンピックミュージアムを活用した学習モデル」、「札幌らしさを生かしたオリパラ教育の実践事例集と副教材」という二つのテーマについてご発言いただいた。これらの意見を資料1にまとめているため、こちらをご確認ください。</p>
2 議 事 札幌らしさを生かしたオリパラ教育の副教材案と実践事例集案について	
山本座長	<p>まずは、副教材案及び実践事例集案を検討するにあたり、岩田指導主事からご説明いただきたい。</p>
事務局	<p>まずは、以前に説明した内容とも重なる部分があるが、資料2をもとに本会議における最終報告をさせていただく。 (事務局から資料2について説明)</p> <p>○副教材</p> <p>続いて、副教材に関する説明をさせていただく。資料3-1を参照してもらいたい。オリパラそのもの(白)及び体育(青)・社会(緑)・総合(黄)・道徳(ピンク)の授業での活用を意識して、色分けしてページ割をしている。</p> <p>次に資料3-2をご覧頂きたい。副教材案を1ページ目から説明していく。</p> <p>1ページ目は表紙で、札幌の街並みをデザインしている。</p> <p>2ページ目は東京オリンピックの記載を中心に「オリンピックとは何か」を、3ページ目は札幌オリンピックの記述や当時の写真を載せている。また、ページ下部にはクイズを載せている。</p> <p>4・5ページ目は、冬季オリンピック・パラリンピックの競技を写真とともに載せている。</p> <p>6・7ページ目は、体育の授業で活用してもらいたいページである。6ペ</p>

	<p>ージ目は、「〇〇小オリンピックを開こう」ということで、マット運動を取り上げつつも、特別活動と関連付けながら使用してもらうことも可能な構成にしている。自分たちでルールを考えたり、開会式や閉会式といった運営を学ぶこともできるように配慮した。7 ページ目はシッティングバレーボールを取り扱っている。また、障がい者という、どうしても車いすのイメージがあるため、知覚的な面の障がいについても触れた構成にした。</p> <p>8 ページからは、社会の学習で使用するページが続く。8 ページ目は、大倉山からは、どのような景色が見えるかを載せている。9 ページ目は、調べ学習にも活用でき、実際にオリンピックミュージアムに行って体験した感想を書くようにしている。</p> <p>10 ページは、札幌の街の発展について学ぶページである。オリンピック開催をきっかけに競技施設や地下鉄、地下街が作られた理由を考えさせたい。11 ページは、地下鉄沿線でオリパラ競技が体験できる場所を掲載している。</p> <p>12・13 ページは、総合の授業を意識して作成した。真ん中の学習の流れに沿って、自ら課題を設定して調査したり、体験したりできるような構成にした。</p> <p>14・15 ページは、道徳の授業で展開する内容です。小学生の体育の授業では、フェアプレーの精神やルール・マナーの遵守に直接触れる部分がないものの、道徳の授業を通して伝えていきたい。</p> <p>16 ページは、子どもたちが親しみやすいクロスワードを取り入れた。オリパラに関わる内容を多く記載している。下段には、授業を通して学んだことを踏まえ、夢や願望をまとめとして書いてもらいたい。</p>
山本座長	<p>まずは、忙しい中、副教材作成の作業をした先生方に、改めて感謝を申し上げたい。前回とは大幅に内容が変わり、委員の方の意見も反映されているが、よりよい副教材とするため、さらに意見をいただきたいと思う。</p>
鈴木委員	<p>大変素晴らしい内容であることに感激している。4 ページの写真で例示されている競技は選別されているのか。</p>
事務局	<p>競技、種別、種目と位置づけられているが、種別や種目を全て記載すると数が多くなりすぎるため、このような例示となっている。</p>

永瀬委員	同じスキーでもアルペンやジャンプ、スノーボードなどジャンルが全く異なるため、多くを残せたらよい。
來田委員	札幌市教育委員会のホームページに全競技を閲覧できるページを設け、IoT を使った授業を取り入れることは難しいか。
事務局	札幌市内でもタブレットを使用した授業がかなり普及しつつあるが、札幌市内全学級で活用するとなると少し厳しい。
永瀬委員	7 ページは、パラリンピックに 1 ページを割かなくても良いと思う。
大牧委員	これまでのやり取りを聞いていて、ページ内に QR コードや URL を入れても良いと思った。文字だけではなく、実際に写真や動画を見れたほうが実感が沸く。
山本座長	子どもたちが動画を見れると、興味や関心が増すと思う。環境が完全には整っていないため、今の意見を全て反映させるのは難しいと思うが、イメージの起点として、ぜひとも検討願いたい。
鈴木委員	11 ページの体験してみようのところは、いろいろな種類のスポーツの写真を載せたほうがよい。体験することも大切だが、まずは見るところから入る子どもたちも多い。
永瀬委員	5 ページのスリーアギトスの色塗りは少し難しすぎると思う。もう少し 3 年生向けのものがよい。
事務局	塗り絵を見ると意欲的になる子どもたちも多いため取り入れたが、少し検討したい。
永瀬委員	パラリンピックに関するクイズがいくつもあって、そのうちの 1 つに色塗りがあるならまだ理解できるが、突発的にこのクイズを設けることに、パラリンピアンとして違和感を感じる。
山本委員	確かに、事務局としては、塗り絵という作業を通して親しみを持ってもらうことを目的にしていたが、今の意見も考慮していただければと思う。

<p>來田委員</p>	<p>10～11 ページが、同じ社会科の授業なのに連動していないと感じた。せつかく施設と地下鉄に触れているのだから、一緒に扱うことができるような作りが望ましい。また、11 ページは、これだと外出したいという気持ちをあまり引き出せないと思う。写真の代わりに、ピクトグラムを書かせて施設を周り、集められるようにするとよい。競技の特徴を掴むとともに、実際に足を運んでもらうきっかけになり、先生方の授業での展開にも貢献できるのではないか。</p>
<p>山本座長</p>	<p>IoT の観点やピクトグラムの導入などは、副々教材的な位置付けで取り入れることができると、さらに魅力的なものになると思う。</p>
<p>永瀬委員</p>	<p>11 ページを障がいのある子どもたちはどう読み取るのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>「体験する」という部分だけではなく、「見る」「支える」「知る」側面もあり、スポーツには多様な関わり方があることを伝えていきたい。</p>
<p>永瀬委員</p>	<p>どうしても、この副教材を見ると、健常者である先生が健常者である子どもたちに教えるという視点しかないように思える。マイノリティである障がい者に、どういう形でスポットを当てていくか。パラリンピックをどのように開催するのが、札幌市の今後の課題であり、障がい者に対する市民の意識を変えていくチャンスであると思う。</p>
<p>山本座長</p>	<p>バリアフリーの施設を記載したマップなど、障がい者への情報提供は非常に重要である。障がいのない子どもたちにも、そのような情報が必要とされていることを理解させるべきである。10・11 ページに、障がい者への福祉的な情報を盛り込めたらよい。</p>
<p>來田委員</p>	<p>11 ページの施設には、障がい者でも歩きやすい道になっているかチェックさせるのも面白いと思う。また、難しいかもしれないが、道徳のページに、違いを認める言葉を入れられたらよい。</p>
<p>山本座長</p>	<p>7 ページでシットィングバレーボールを紹介しているが、この記載の仕方だと「シットィングバレーボールは障がい者のスポーツ」と思われてしまう。実際には障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツであるため、アダプテッドスポーツの視点を入れたほうがよい。</p>

成田委員	<p>車いすやベビーカーを押して歩いたことで、初めて、エレベーターが無いことへの不便さやトイレの個室の狭さを実感した。この副教材を、子どもたちだけではなく、おうちの人にも一緒に考えてもらえる工夫があればよい。</p>
山本座長	<p>11 ページは、様々な観点で可能性のあるページと言える。紙面の都合もあり、採用できない意見も出てくると思うが、ぜひ検討願いたい。</p>
大牧委員	<p>副教材を作成した後は、教師用の指導資料集を作成する予定である。副教材に載せることができない意見であっても、できるだけ指導資料集に組み込むようにしたい。</p>
荒委員	<p>最後のページは、これまでの振り返りができるページとなるとよい。保護者の方が一緒に副教材を見る場合、表紙と最後のページは視覚的に重要になってくるため、一目見てまとめとわかるのが理想だと思う。</p>
山本座長	<p>続いて、実践事例集の説明を岩田指導主事よりお願いしたい。</p>
事務局	<p>○実践事例集</p> <p>資料 4 の実践事例集案をご覧いただきたい。中学校・高校向けに作成している。</p> <p>まず始めに、オリンピック・パラリンピック教育とは何かという概念のところをまとめている。現行の学習の中に、うまくオリンピック・パラリンピックを位置付けながら、授業を展開していけたらと思う。</p> <p>続いて、中学 1 年生の展開例についてである。マラソンをしている人の写真を導入に取り上げ、周囲にどのような人が写っているか確認させる。展開部分では、「スポーツには多様な関わり方があること」を、オリンピック・パラリンピックを通して学んでほしい。</p> <p>中学 2 年生は、ルールやマナーとはどのようなものかに着目させたい。例として、バスケットボールを行う上で、環境が整っていない状況から、いかに自分たちなりのルールを作ることができるかを導入で考える。ルールやマナーの存在意義を確認し、また、自ら考えることで社会性を育みたい。様々な状況から、インクルーシブや共生を学習していく流れになっている。</p> <p>中学 3 年生は、学習指導要領の体育理論で、オリンピック・パラリンピックそのものに関して触れている箇所がある。導入でテレビや新聞な</p>

<p>山本座長</p>	<p>どで見聞きしたスポーツの国際大会を挙げさせ、展開部分ではオリンピック・パラリンピックの理念等を学びつつ、国際的なスポーツ大会の役割を考えさせたい。</p> <p>中1～3までの3つの例を説明したが、これだけでは保健体育の教員にしか行き渡らないため、担任の先生が授業をする道徳の実践事例も設け、全教員がオリパラ教育を意識できるようにしたい。札幌らしさを活かすため、阿部さんの体験をメインに著書「やめねえで、いがった。」も活用しながら授業を進めていく。挫折や喜びなどを通して、弱さを克服する強さや気高さを実感してほしい。オリパラ教育推進事業で実際に行われた授業の展開例となっている。</p> <p>高校の指導例としては、特別活動として第1・2回の検討会議とほとんど内容に変更はなく、昨年度の本市の実際に行われた事例を載せている。</p> <p>前回からは、新たにオリンピック・パラリンピック教育の概念と道徳の展開例が追加された。何かお気づきの点はあるか。</p>
<p>来田委員</p>	<p>前回から比べて、確実に内容が磨かれている。気になった点として、平和に貢献する世界最大の祭典と表現すると、子どもたちは平和が勝手にやってくると思い込んでしまう。そうではなくて、平和は自分たちで作りに上げていく意識を植え付けてほしい。同様に、国際交流の部分も、交流すれば自然と平和になるのかをよく考えてほしい。</p> <p>平和とリンクするが、概念のページでも、価値は教わるものではなく、生成していくものであり、変化していくものと認識するべきである。少し意識するだけで、教員側もオリパラ教育に対する向き合い方が変わってくると思う。価値を作っていくことが、平和に結びついていく。</p>
<p>山本座長</p>	<p>道徳教育と結びつくが、学びの本質とは、良いものを取り入れることではなく、今ここにいるメンバーで、ここにあるもの・ことを対象にして新しい意味や価値を生成していくことだと思う。</p>
<p>永瀬委員</p>	<p>ワークシートの挿絵に、パラリンピック競技も入れてほしい。また、パラリンピックの4つの価値のEqualityは、平等ではなく公平とすべき。</p>
<p>山本座長</p>	<p>平等と公平の取り扱いは難しいところがある。例だが、全員に同じものを配るのか（平等）、特性を活かして個々に別々のものを配って結果を</p>

	導き出すのか（公平）という違いもある。子どもたちに、平等と公平について考えてもらうのも良い。
永瀬委員	そのあたりを指導する先生方にも理解してもらえるとありがたい。
鈴木委員	概念をまとめた最初のページは、先生方には伝わると思うが、これを子どもたちに伝えるには、もう少し易しい言葉で教えられる工夫がほしい。
成田委員	道徳が教科として扱われると評価が必要になると思うが、答えがあるものではないので、評価の観点として価値を一元化することに対して違和感を覚える。
鈴木委員	阿部さんの著書では、評価の観点にもある「最後までやり抜くことの大切さ」と同時に「つらい時に人に優しくできる気持ち」も大切であると示されている。その2つがあるからこそ、阿部さんのような人間力が形成されると思うため、授業展開例の中にも「つらい時に人に優しくできる気持ち」を組み込んでほしい。
山本座長	もう少し時間があるので、もう一度、小学校の副教材について検討したい。
秀島委員	○副教材 8ページから社会の部分となっているが、10・11ページも8ページと似た構成になっているので、授業ではどのように展開していくのか教えてほしい。
事務局	社会科で活用するページなので、8ページは「市の様子を知る、公共施設のはたらき」をねらいとし、10・11ページは「札幌オリンピック当時の街の発展・移り変わり」に着目させ授業を進めていきたい。
永瀬委員	6・7ページは、パラリンピックのことを調べたり考えたりしてもらっている気持ちは伝わるが、どうしてもオリンピックとパラリンピックが分けられている気がする。障がい者も含めて、みんなで取り組めるような配慮があると良い。

山本座長	確かに、今の指摘を受けて副教材を見てみると、分けられているようなニュアンスとして伝わってしまう。障がいの有無に関わらず、誰でも楽しめるというインクルージョンの視点をうまく表現できると良い。
永瀬委員	小学1年生とドッジボールをする機会があったが、「後ろから当てるのは禁止」など、障がい者に配慮したルールを考えることは小学1年生でもできたので、そのような「考えること」がパラリンピック教育にとっては大切だと思う。
山本座長	6ページと7ページを一部入れ替えて、シッティングバレーボールをパラリンピック競技と紹介せず、「障がいの有無に関わらず、みんなで一緒にやってみよう」と展開するのがどうか。
永瀬委員	日本のシッティングバレーボール大会に出場している選手の半分は健常者であるため、「みんなで一緒に」というところが重要だと思う。シッティングバレーボールなのに、車いすに乗っている人は地面に座れないから排除となってしまえば、パラリンピックの理念も何もなくなってしまふ。状況に応じて、ルールを変化させ作り上げていくことが望ましい。
鈴木委員	健常者が何かを抑制して障がい者の程度に合わせるというのが一般的に考えられがちだが、健常者と障がい者の双方が互いに歩み寄るような工夫があっても良い。
山本座長	その視点がアダプテッドスポーツには欠かせない。このページは、オリパラ教育の中でも、スポーツの巧拙や障がいの有無、男女、年齢などを問わずに、みんなで楽しめる工夫をすることにつながる部分でもある。そのあたりをうまく勘案してもらえると嬉しい。
来田委員	総合のページに関して、総合的な学習は裁量が広く、何でもありというようなイメージを持ってしまい、授業のねらいを設定するのが難しい。他の学年との関連は考えていたか。
事務局	特に他学年の教育課程全般との連携については考えておらず、まずは3年生がオリパラ教育の起点となり、各学校の3年生の教育課程編成に役立ててもらえると考えていた。

<p>來田委員</p>	<p>それだと、学校の先生方はこの副教材を扱いにくいと思う。それよりも、「全体の流れ（1～6年生通して）の中で、3年生向けはこのページ」というような位置付けができると、3年生に対して何を学ばせたいのかははっきり伝わると思う。あまり現実的な話ではないかもしれないが、4～6年生の授業と関連させることはできないかシミュレーションしてみしてほしい。</p>
<p>山本座長</p>	<p>他学年との連続性や関連性についても、難しいかもしれないが、ぜひ検討してみしてほしい。</p> <p>他に意見はないか。そろそろ時間が迫ってきているので、このあたりで意見交換は終了する。改めて、大変忙しい中、作業部会の先生方には副教材及び実践事例集の作成に携わっていただき、感謝申し上げます。</p> <p>今回の会議を踏まえ、修正の程度により流動的な部分があるものの、今後のスケジュールについて事務局より確認してもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>まずは、貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。意見をもとに、反映させることができるかを、今後の作業部会で検討したい。もしお許しいただけるのであれば、作業部会のほうに一任いただき、完成に向けて取り組んでいきたいと思っている。作業部会で作成した最終案を、委員の方に電子メールにて提供し、目を通していただいた上で完成とさせたい。</p> <p>最後に、委員の皆様、作業部会の皆様に御礼をさせていただき、事務局に閉会してもらおうこととしたい。</p>
<p>3 閉 会</p>	
<p>引地部長</p>	<p>閉会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。委員の皆様及び作業部会の先生方は、大変忙しい中、お集まりいただき、そして貴重なご意見をいただき、非常に感謝している。オリパラ教育は、スポーツの価値への理解や規範主義の醸成、国際社会への理解・実現等教育的価値を含んでおり、1972年大会開催の歴史と伝統を踏まえ、オリパラ教育の充実を図ることが重要だと考えている。</p> <p>3回にわたる検討会議において、委員の皆様には様々な立場や観点からご意見をいただき、また作業部会の先生方においては、札幌市が目指している課題探求型の学習を取り入れてもらっていることに敬意を表する。</p>

<p>今後は、さらに成果物として磨きあげ、配布だけでなく授業での積極的な活用を目指したい。皆様におかれても、札幌市の子どもたちのために、オリパラ教育の充実のために、更なるお力添えをいただければ幸いである。</p>
--

<p>これで第3回オリパラ教育検討会議を終了する。</p>
